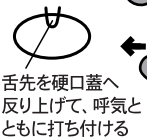


ラ行の発音

ラリルレロの子音"r"は、舌先を硬口蓋の方へ反り上げておいて呼気を出しはじめてから舌先を歯茎にいちど打ち付け、そして、すぐその舌を離すと発せられる有声の弾音である。英語の"r"や"l"とは異なる、いわばその中間的な日本語固有の音。使用頻度が高く、しかも難しい音なので、苦手

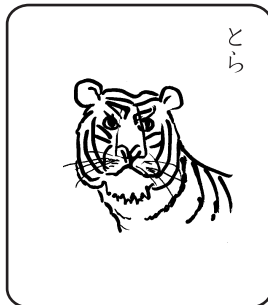
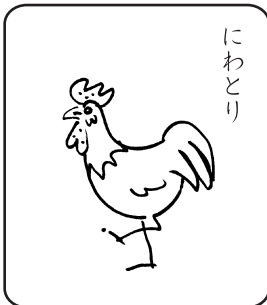
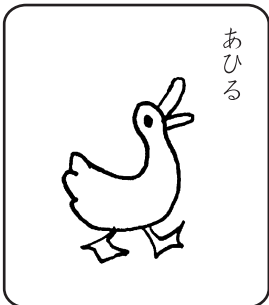
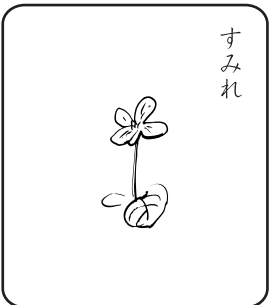
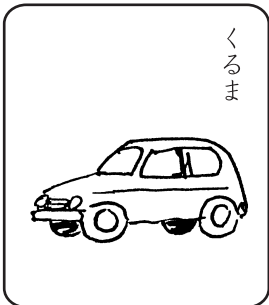
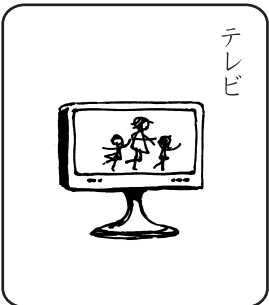
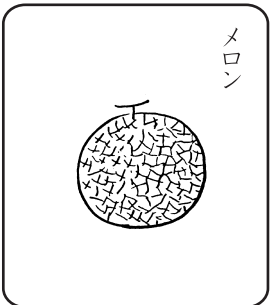
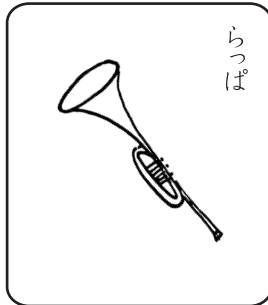
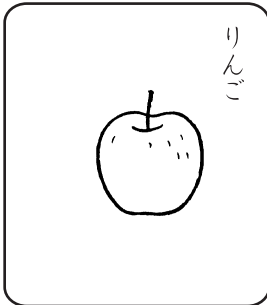
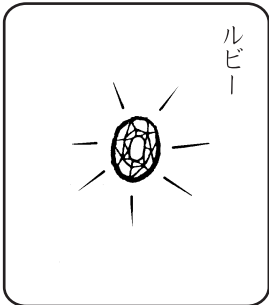
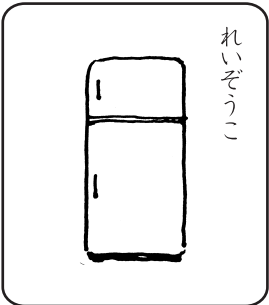
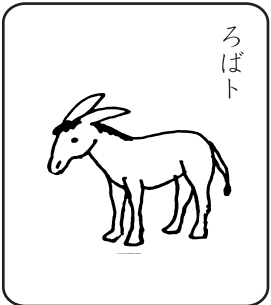
口形文字



な場合は練習が大切。4歳から4歳半の頃に完成すればふつう。

発音の指導では、発声よりも聴き分けの練習を優先させる。聴き分けができればいざれ発音ができるようになると考えてよい。言い直しをさせるなど子どもの言葉に直接さわって過敏にするのは禁物である。話す楽しさを損なうばかりか、仮性の吃音症状を生じることもある。子どもの言葉を受容した上で正しい発音で応答する。「おたるたんがいる」と言ったら「そうねえ、おさるさんがいるねえ」と返してあげる。

はつきり、げんきよく、いえるかな。
「ラリルレロ」って
さいごに
いってみよう。



1) 絵の単語を音読させ、構音(発音)をチエツク。
「ラリルレロ」になるなど、夕行との分化が未成熟なことがある。
2) 正しい発音を聴かせ、復唱は無理のない範囲で。
3) 「ラリルレロ」の音列をくり返し言わせて、覚えさせる。

あ) ラ行の構音チエツクとラ行の音列習得を意図した課題。
b) 「ラリルレロ」の構音については説明にある通り。
c) 夕行との分化など、発音の矯正には文字学習が現像となることがある。幼少時の体験が一生に及ぶ。
d) 五十音の行を覚えることは、多様な課題の準備となる。